

## 第1部 オープニング – バラード詩、ダンス、詩

### コミッサオン・ヂ・フレンチ 「勇敢なキャラバン」

振付: エリオ・ベジャニ

サウゲイロのコミッサオン・ヂ・フレンチは、中世祭りの旅芸人一座の冒険的な風景のあれこれを盛り込んで紹介する。若い娘たちの危機を救う英雄的な山賊、そして、北東部のリズムと最高に力強いサンバノベを混淆させるダンサーたち。

### 背景装置(小山車)「旅芸人一座の伝統(開始口上)」

パレード開始にあたって、サウゲイロはエスコーラ・ヂ・サンバの伝統的手法であるページ・パサージェン(開始口上)を再現する。この背景装置(小山車)はリテラトゥーラ・ヂ・コルデウの挿絵として使われた木版画に因んだもので、これをもって、我々の「白と紅の民話詩集」の開始を告げる。続いて、旅芸人の列に従う中世祭りのアーラが現れ、明るさと楽しさが通りを包む。

### 第1アーラ 「マクレレ、中世祭り(演劇調)」

第1アーラでは、リテラトゥーラ・ヂ・コルデウのルーツを表現する、様々なキャラクターが登場する。

DESTAQUI・ヂ・シャオン カルリーニョス・コレオーグラフォ 「勇敢な男」(第1アーラと交錯)

### 第1山車(アブリ・アラス) 「コルデウの王国」

ブラジル北東部と中世ヨーロッパ起源の諸事象を織り交せて、リテラトゥーラ・ヂ・コルデウの幻想的な雰囲気をも詩的に表現する。

DESTAQUI ルイーザ・ドウラン 「中世風の木版画」

他・女性搭乗員 「中世のミュージズ」

## 第2部 私が想像した宮廷

### 第2アーラ 「大帝の騎士」

大帝の騎士たちという存在も、民衆に語り継がれてきた歴史テーマである。カール大帝と12人の聖騎士の伝説は、海を渡り、ブラジルの北東部に至り、コルデウという小冊子に定着している。

### 第3アーラ 「王と女王」

中世の高貴な存在の中心である王と女王も、初期のコルデウに掲載された物語や詩の着想の源となったが、その着衣はかなりブラジルのものに置き換えられていた。

### 第4アーラ 「王子と王女」

王室には王子と王女もいる。これらもまた、白と紅の民話詩集というカーニバルに欠かせない存在だ。

#### 第 5 アーラ 「クリスチャン対ムーア人」

「オリベイロス(オリビエ)対フェハブラース(フィエラブラ)の戦い」はレアンドロ・ゴメス・ヂ・バホスが書いた冊子で、ブラジルのコルデウにおける叙事詩スタイルの始まりと考えられている。

#### デスタッキ・ヂ・シャオン アドリアーナ・ボンボン 「エンカンタリア(魔法)の女王」

#### 第 2 山車 「エンカンタリア(魔法)の船」

サウゲイロのパレードに、中世ヨーロッパの幻想的な歴史上の人物を乗せた魔法の船がやってくる。そこには豪華さと騎士道とに結び付けられ、ブラジル北東部のリテラトゥーラ・ヂ・コルデウの人気を高めた、カール大帝もいる。

(「エンカンタリア」はピアウイ、マラニャオン、パラの各州で盛んな、アフリカ起源の宗教)

#### デスタッキ ジョアン・エウデル 「カール大帝」

他・女性搭乗員 「人魚と海賊」

### 第 3 部 「謎のクジャクのロマンス詩」

#### 第 6 アーラ 「アテネにさす月明かり」

1920 年代の末にジョゼ・カメロ・ヂ・メロ・ヘゼンヂが発表した「謎のクジャクのロマンス詩」は、リテラトゥーラ・ヂ・コルデウの中でも最大級のヒットとなった定番である。

#### 第 7 アーラ 「エヴァンジェリスタ」

「謎のクジャクのロマンス詩」では、トルコの青年、エヴァンジェリスタが、伯爵令嬢クレウーザの写真を見てそのとりこになってしまう。当の令嬢は父である伯爵によって自宅に閉じ込められており、...

#### 第 8 アーラ 「費やすべき財産」

エヴァンジェリスタは、父の死去によりひと財産を相続する。これによって、愛しの令嬢に会うべくギリシャへと向かうことができるようになったのだ。

#### 第 9 アーラ 「からくり職人」

アテネに着いたエヴァンジェリスタは、ひとりの職人に、伯爵の目を盗んでうら若きクレウーザに会うことができるようなからくり仕掛けの製作を依頼する。

### 第 10 アーラ 「扇のように開いた尾羽」

職人エヂムンドは、「空飛ぶ魔法の鳥」を発明する。翼や尾羽が扇のように開いたその姿は、まさしく「謎のクジャク」というべきものだった。

DESTACADA・チ・シャオン クラウチア・シウヴァ 「見事な仕掛け製作」

ソフィー・シャルロッチ 「伯爵令嬢クレウーザ」

### 第 3 山車 「謎のクジャク」

千夜一夜物語の影響を受けて書かれた、青年エヴァンジェリスタと囚われの令嬢の話、「謎のクジャク」は、リテラトゥーラ・チ・コルデウ史上最大級のヒットとなった。

DESTACADA マウリシオ・ピーナ 「魔法の鳥」

他・男女搭乗員 「千夜一夜物語の影響」

## 第4部 「荒野の英雄たち」

### 第 11 アーラ(作曲部) 「ボランチ(武装警察)」

正規の武装警察に代わって、志願者の集まりであるボランチが、山賊や、アントニオ・コンセレイロに率いられた反乱勢力と戦った。

### 第 12 アーラ アントニオ・コンセレイロ

宗教的および社会運動上の指導者であり、「荒野は海となり、海は荒野となる」と予言したアントニオ・メンヂス・マシエウ(通称アントニオ・コンセレイロ)に因むもの。

### 第 13 アーラ(バイアーナ) 「マリア・ボニータ」

マリア・ゴメス・チ・オリベイラ、通称マリア・ボニータは、山賊に加わった最初の女性であり、ランピアオンの愛人としても名高い。

### メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第 1 ペア)

シヂクレイとグレイスイ・シンパチー

#### 「荒野を照らす太陽の輝きと月明かり」

ランピアオンとマリア・ボニータが支配する「王国」では、昼間は焼けつくような太陽が照りつけ、夜はこの上なく美しい月明かりが輝く。荒野の上の天界におけるこの天体の踊りは、コルデウ作者の手により自然を題材とした詩となった。

### ハイニャ・ダ・パテリア ヴィヴィアーニ・アラウージョ 「山賊の財宝」

### 第 14 アーラ(パテリア) 「ランピアオンの一味」

通りを騒がせにやってきた一団は、ブラジルで一番有名な山賊、ランピアオンの一味だ。

#### 第 15 アーラ(パシスタ)「カルカラー(カンムリカラカラノハヤブサの一種)」

カアチंगा(サバンナ)の乾燥の中での抵抗の象徴となったカルカラーの揺れる様や抜け目ない身のこなしを伴って、サウゲイロのパシスタが通りに舞い降りる。

#### 第 16 アーラ「馬乗り(牛飼い)」

名もなき英雄である勇敢な馬乗りは、家畜を養い、乾燥地の厳しい現実には立ち向かい、それでも魂と心には、北東部の大地に花咲くような詩を持ち続ける。

DESTACADA DE D. S. FELICIANO FELICIANO DE FIGUEIREDO 「山賊のミューズ」

#### 第 4 山車「我が荒野の詩的風景」

干からびた荒野ではあるが、それは、コルデウ作者が作り出す数々の詩を生み出す肥沃の大地でもある。

DESTACADA DANIEL RIBEIRO 「サボテンの花」

他・女性搭乗員「女山賊たち」

他・パフォーマンス要員「シャシャードの踊り」

#### 第 5 部「超常的な荒野」

#### 第 17 アーラ (ヴェーリャ・グワルダ)「コロネウ(大地主=名誉佐官)」

伝統的なヴェーリャ・グワルダが至極優雅に登場し、リテラトゥーラ・ヂ・コルデウの常連登場人物像である威厳あるコロネウ(私的軍隊を束ねる大地主)を恭しく演じる。

#### 第 18 アーラ「死の婦人」

ついに超常現象がパレードに加わる。死の婦人―毎度お馴染みの昔ながらのキャラクター―もリテラトゥーラ・ヂ・コルデウに最も多く登場するもののひとつだ。

#### 第 19 アーラ「山賊の亡霊」

ランピアオンとその一味が命を落とした、アンジーコの闘いについては、幾度も語られてきた。「強い男、マッチョ、正義の山賊」の伝説は、その死後にますます語られることとなった。

#### 第 20 アーラ「ボー・マンチンゲイロ(ラッキー牛)」

北東部の荒野セルタオンの「皮革の時代」に大事にされた牛の魅力を反映した詩もあった。

背景装置(小山車)「ボー・マンチンゲイロ(ラッキー牛)」

第 20 アーラの中で、ロバを連れたメンバーとともに登場。伝説的なボイ・マンデンゲイロも並んで登場し、この民衆的な創作上最も魅力的な話のひとつである説話を表現する。

#### 第 21 アーラ 「カイポーラ(森の妖精)」

カイポーラはトゥピ・グワラニ族の神話に登場する、森を守る妖精である。動植物の管理人がカイポーラだ。かかとを軸にした独特のスピンド、侵入者を惑わす。その頭は燃えあがる炎の姿となり、イノシシの背に乗って走り回り、荒野セルタオンを驚かす。

#### 第 22 アーラ 「カエターナという名のジャガー」

北東部の荒野セルタオンに暮らす者にとって、カエターナという名前は死を意味する。「ジャガーに出くわした」と言えば、それは突然死を意味する。気をつけろ！

#### 第 23 アーラ 「狼男」

満月の夜に、恐ろしい顔が現れる。これが狼男。ヨーロッパで生まれた伝説。ブラジルでは民間伝承として全国的に信じられてしまった。

DESTAQUI・ヂ・シャオン エヂクレイア 「夜の化け物」

#### 第 5 山車 「荒野セルタオンの化け物たち」

コルデウ作者の詩人たちが語り、語り継いだ恐怖と化け物が、北東部のあちこちで人々の話題となって広まっていった。

DESTAQUI マリア・エレナ・カダール 「夜の顔」

他・女性搭乗員 「ジャガー、ヘビ、森の妖怪」

### 第6部 「神と悪魔の間で」

#### 第 24 アーラ 「パチン・シツソ(シセロ神父)」

シセロ・ホマオン・バチスタは 1844 年に生まれた。自らの教団を組織し、後に司祭となった。現在でも、パチン・シツソへの信仰からセアラ州のクラートを訪れる巡礼者が多く存在する。

#### 第 25 アーラ 「カルピデイラス(泣き女)」

カルピデイラスは、死者のために泣くよう雇われるプロの女性たちである。今回のパレードでは、美しい未亡人の姿で、明るく振舞い、非のうちようのない揺れる踊りを披露する。

#### 第 26 アーラ 「巡礼者」

シセロ神父を崇める北東部の巡礼者たちの姿を表現する。

### 背景装置(小出車)「輿」

第 26 アーラの中で、巡礼者たちがシセロ神父の肖像を担ぎ上げる輿。

### DESTACQUE DE SIAON PAULA CAMARGO 「誘惑のヘビ」

#### 第 27 アーラ 「善と悪の間に」

善と悪をその二面性を盛り込んで、装飾的に擬人化して表現する。片面は白と金の善、もう片面は黒く悪魔的な悪。

#### 第 28 アーラ 「聖遺物」

白と紅のパレードに聖遺物が持ち込まれる。ブラジル北東部の宗教文化上では聖者の小さな肖像画(のペンダント)に聖遺物が収められている(ことになっている)。

#### メストリ・サーラとポルタ・バンデイラ(第 2 ペア)

カルロス・エドゥアルドとルアーナ・ゴメス

#### 「善対悪の闘い」

#### 第 29 アーラ 「天使と悪魔」

北東部の小冊子民話詩集コルデウに搭乘するキャラクターとしての姿。堂々たる羽をもつ天使と、燃えるような紅色の装束の悪魔。

#### 第 6 山車 「最後の審判 — 天国と地獄の間で」

罪と徳との二面性に触発され、神と悪魔との闘いや天国と地獄を行き来する魂を題材とした詩が作られた。

DESTACQUE NEUSMAREL PIERRES 「天使と悪魔の間で」

副DESTACQUE VALESKA POPOZODA 「魔性の女」

他・男女搭乗員 「天使と悪魔」

### 第7部 「荒野セルタオンの詩人たちに捧げる戴冠式」

#### 第 30 アーラ 「即興詩人」

コルデウには、王や貴族を題材としたものも多い。このパレードでは、これらの大衆的な詩人たちが、自身の作品に登場させたような高貴の存在として遇せられる。

#### 第 31 アーラ 「アコーディオン弾き」

北東部の楽しいお祭りには、アコーディオン弾きが欠かせない。蛇腹のついた楽器を指で操り、最

上級のメロディを生み出し、来客全てを盛り上げる。

### 第 32 アーラ 「ザブンバ叩き」

今回の表彰式に伴う、フォホー、シャシャード、シヨッチ、バイヤオンなどの音楽の根幹を支えるザブンバの叩き手(ザブンベイロス)も到着する。

### 第 33 アーラ 「マムレンゴ(パペット人形)」

多くの芸能が集められるこの機会に、マムレンゴ(パペット人形)を欠かすわけにはいかない。人形の操作もまた、この祭りの見せ場の一つだ。

### デスタッキ・ヂ・シャオン ヴァニア・フロール 「白と紅のミューズ」

### 第 34 アーラ 「白と紅の民話詩集」

サウゲイロによる顕彰の証として、今夜のカーニバルにおけるサンバの歌詞とコルデウの韻文詩との融合を表現する。

### 第 35 アーラ 「黄金に輝く太陽の宮廷の王」

カーニバルの夜の熱狂の産物である空想の王国を統べる、黄金に輝く太陽の宮殿の王が練り歩く。

### デスタッキ・ヂ・シャオン ミレーナ・ノゲイラ 「コルデウの貴族」

### 第 7 山車 「表彰」

サウゲイロは、魅惑的なカーニバルの夜にサンバと混じりあったコルデウという大衆的詩集にこのパレードを捧げる。すなわち、白と紅の民話詩集の戴冠式である。

### デスタッキ モニーキ・ラマルキとホナウド・バホス 「コルデウの女王と王」

### 他・男女搭乗員 「コルデウの宮廷」